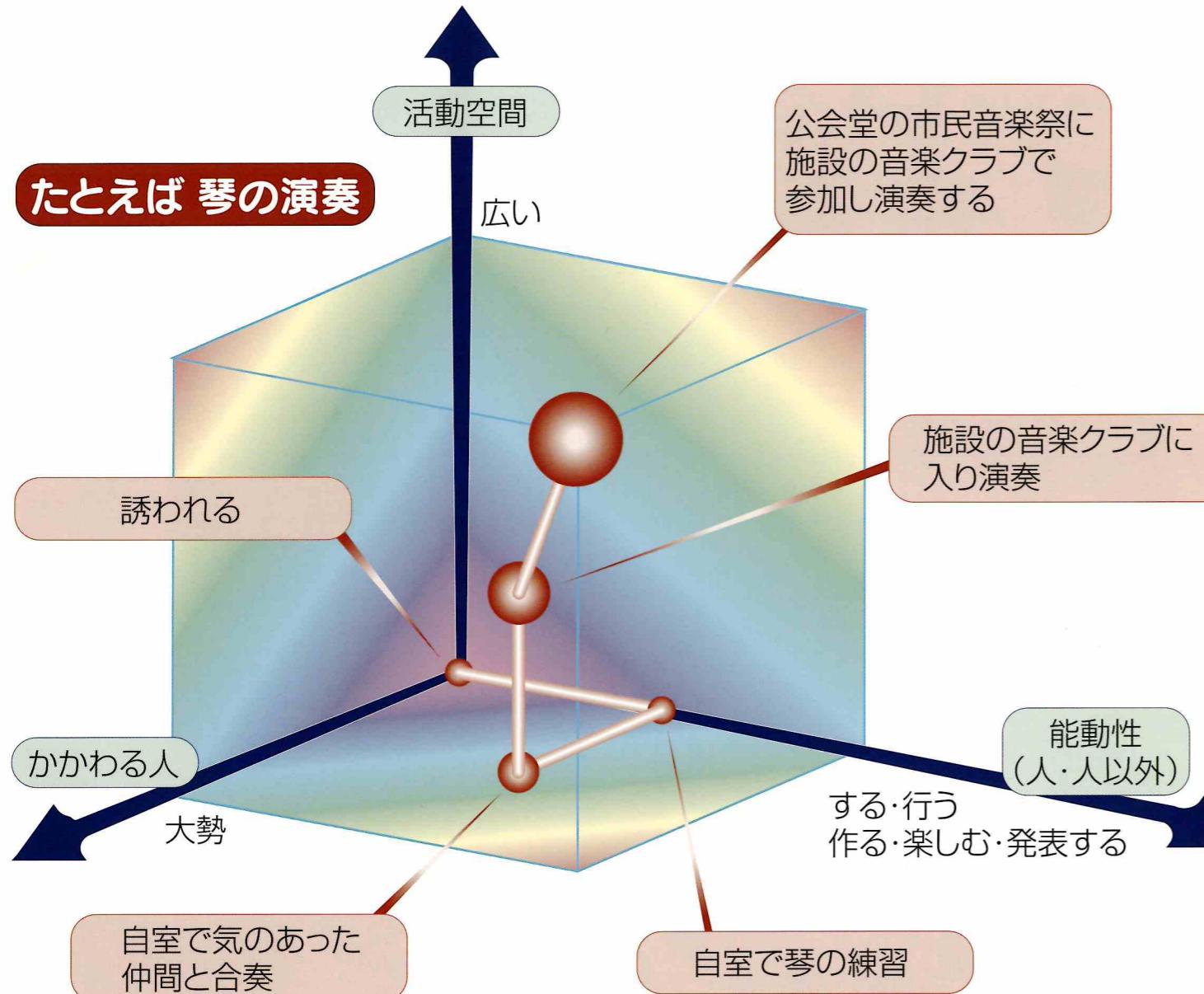


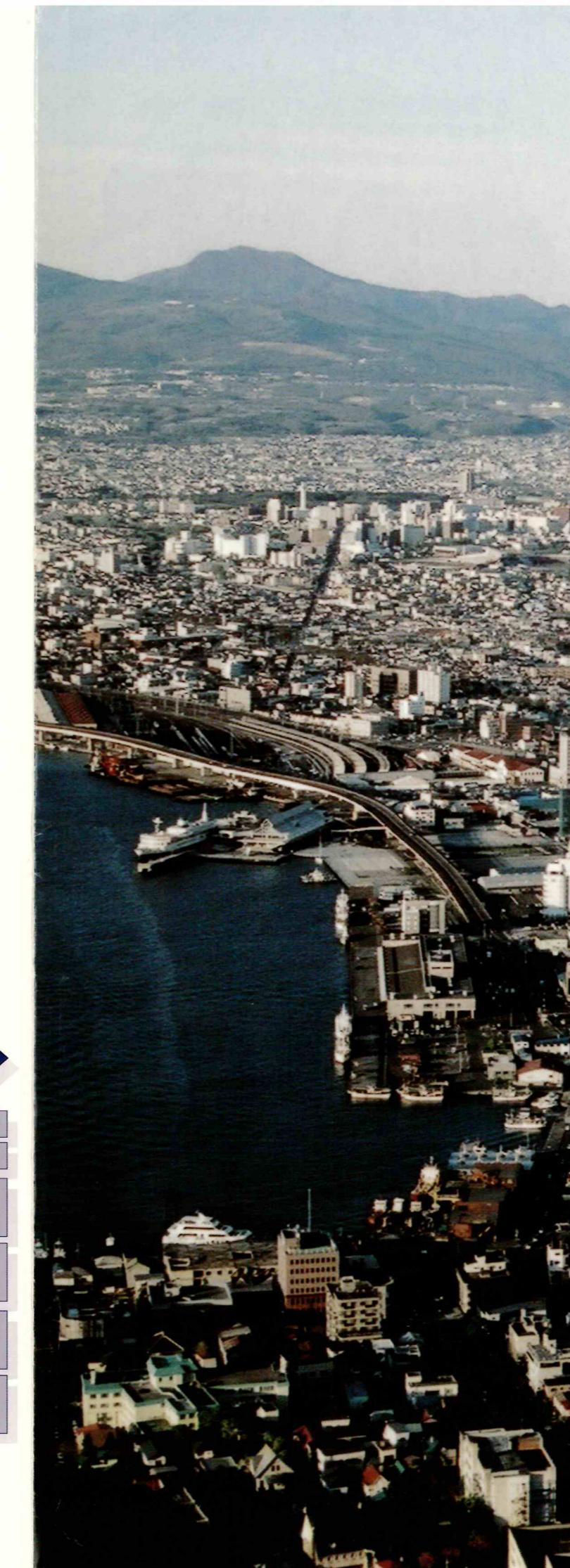
社会参加マトリックス

独立行政法人福祉医療機構助成事業

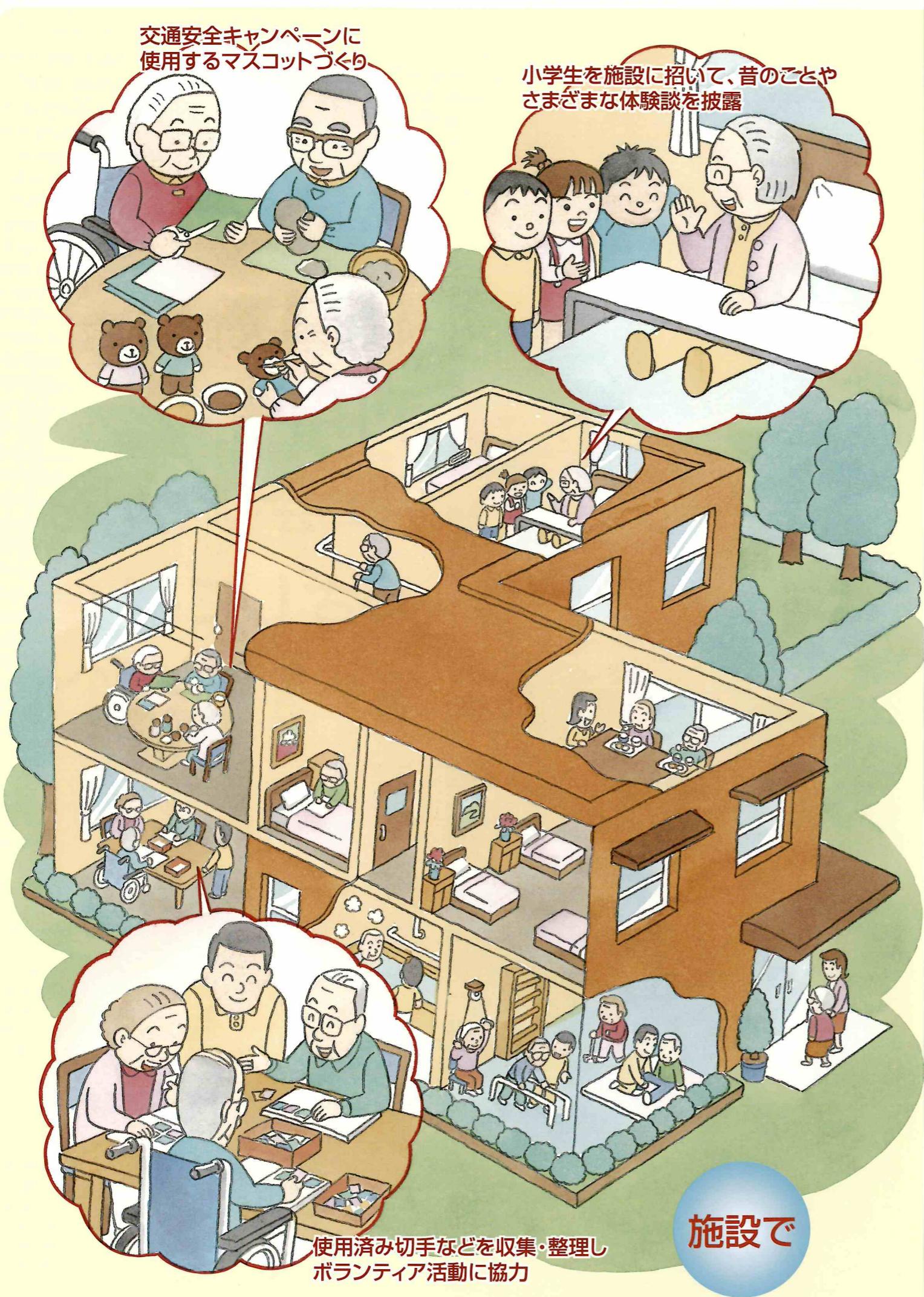


利用者の段階的な社会参加の例

能動性	ボランティアにお化粧をしてもらう	自分でお化粧をする	他のお年寄りのお化粧を手伝う
	施設でボランティアの演奏を聞く	音楽祭に行く	音楽祭に楽器演奏で参加をする
かかわる人	一人でマスコットを作る	仲間とマスコットを作る	町内で車の運転者にマスコットと交通安全パンフを配る
	一人であやとりを楽しむ	施設を訪れた小学生にあやとりを教える	小学校のクラスであやとりを教える
活動空間 (=生活空間)	自室で紅茶を飲む	ホールで(茶の間で)紅茶を飲む	行きつけの喫茶店に行って紅茶を飲む
	自室で琴の練習をする	施設内で(自宅で)琴の演奏をする	公会堂の市民音楽祭で琴の演奏をする



介護老人保健施設
利用者の
「社会参加」を
めざして
施設から地域へ



全老健の考える 利用者の「社会参加」とは？

○地域における役割の継続・回復を目的に、利用者自身がスタッフとともに使う施設内外での活動をさします。

たとえば……

- 訪問活動** 幼稚園や小学校を訪問し、利用者が自身の経験や知恵・知識を伝達する活動
- 参加活動** 地域交流の一環として、地域のイベント（お祭りなどの行事）に参加する活動
- 収集活動** 使用済みの切手やカードなどを収集し、リサイクルさせて社会貢献する活動

交流訪問
(施設に招く、
地域に出向く)

参加・展示

その他

社会参加活動への取り組みのステップ

(1) 共通の理解のもと

まず、「利用者の社会参加」について、スタッフが共通の理解をもつことが必要です。このような活動は家庭復帰、在宅支援の促進へつながっていき、利用者の生活の質の向上に結びつきます。

(2) 可能なことから始める取り組み

施設内から施設外へ、受動から能動へ。利用者・スタッフともに段階的にステップアップしていくことが大切です。「社会参加促進チーム」を設置したり、担当者を明確にしておくと継続的な展開が期待できます。

(3) スタッフ自身が社会参加

スタッフ自身も自治会等の地域活動へ積極的に参加するなどして、地域との距離を縮めることができます。

伝統継承

もちつき、お手玉づくり、畳づくり、味噌・漬物づくり

配布ボランティア

ぞうきん（幼稚園、小・中学校へ）、交通安全のマスコット（警察署と協力）

語り

昔話、戦争体験、震災体験

参 加

文化祭・運動会（小・中・高校）、祭り

作品展示

文化祭（自治会など）、スーパーマーケット、銀行、郵便局など

発 表

寸劇、人形劇、大正琴など楽器演奏（幼稚園～市民ホール）

収集ボランティア

使用済みの切手・各種プリペイドカード、書き損じハガキ、プレタブ

楽しむ・味わう

外出・買い物、自宅近くへのドライブ、花見、孫の結婚式に参加

みそづくり

昔ながらの味噌づくりの
方法を若い世代にレクチャー

地域で

幼稚園に出向いて、先生の
協力を得て「紙芝居」を披露

お祭りに参加して、
地域の人と交流

畑に出向いて「昔とった杵柄」で
作業のコツを伝授

交通安全キャンペーンに参加し
自分たちが製作したマスコットを配布